

# 養父市の子ども学習・生活像は？

## 平成21年度「全国学力・学習状況調査」

全国の子どもたちが、同じ問題を一齐に解く「全国学力・学習状況調査」が、平成21年4月21日に実施されました。

養父市「全国学力・学習状況調査」検討会議では、過去のデータとの比較も交えながら養父市の子どもたちの生活・学習状況の分析を行いました。今回の広報では、その分析結果の一部を報告します。

養父市内の小・中学校では、平成19年・20年度調査の結果から自校の成果と課題を分析し、改善のための方策を立て、児童生徒の生活改善・学力向上に努めてきました。

基礎・基本の確実な定着をめざして、1日10分から15分間の「ドリルタイム(学習タイム)」を設定し、漢字や計算の反復練習を行う学校や、一週間に一度テレビを見ない日「ノー・テレビデー」を設け、親子の会話や読書活動を推奨する学校が増えていきます。

また授業では、言語活動や表現活動を積極的に取り入れたり、具体物や体験活動を通して理解を促したりするなど、「活用する力」の向上をめざした実践を行っています。

こうした取り組みの検証も含め、今年は特に次の観点から

養父市の生活・学習状況の分析を進めました。

過去3年間の「児童(生徒)質問紙」の結果の比較検討

※養父市の子どもの生活実態(成果と課題)について、年度による差異や変化を分析する。

過去3年間の「児童(生徒)質問紙」の調査結果の平均値を対象にして、回答率が80%以上の項目、50%未満の項目について成果と課題を分析

●算数(数学)・国語の領域・課題ことの正答率の比較  
※苦手傾向や得意傾向を把握する。  
●平成19年、20年度調査から明らかにになった課題に対する取り組みのうち、生活改善・学力向上に成果があった実践を検証

### 平成21年度調査で分かった課題と改善方策

#### 小学校(国語)

【できていなかったこと】

▽文章表現の工夫に気づくこと

▽文のつながりを考えながら接続語を使って文章を分けること

▽ローマ字の読み書き

▽書写(毛筆)における文字の大きさや配列についての意識

▽目的や意図に応じて自分の考えを整理し話す(書く)こと

▽条件に合わせてまとめ、書くこと

▽長文の読み取り(事柄を整理して読んだり事象や意見を関連づけて書くこと)

#### 具体的な改善策

▽読書習慣の定着を

●家庭と学校が連携して、読書の楽しさを伝え、多様なジャンルの本に親しませる。

▽ために「辞書」をひく習慣を

▽「書く」活動の充実と「書く」意欲を高める工夫を

●「書くこと」の日常化

●文章の要約や推敲、条件つき作文、意見文、報告文等、多様な表現活動の実践

●題材や評価の工夫

▽「話す」活動の充実を

●発達段階や目的に応じた話し合い活動を組織する。

小学校(算数)

【できていなかったこと】

▽減法と除法の入り交じった計算

▽数直線上の数の読み取り

▽四角形の内角の和の求め方

▽割合(百分率)の求め方

▽論理的に考え、説明する力

▽与えられた条件に合う時刻を筋道立てて考え、時刻表から選択すること

▽複数の選択肢から条件に合うものを選択すること

▽グラフを基に割合の大小を考えること

### 【調査の内容】

調査者：市内の小学校6年生(11校・254人)と中学校3年生(5校・312人)

#### ◆調査した教科

小学校=国語、算数

中学校=国語、数学

それぞれ「知識」に関する問題と「活用」に関する問題に分けて調査

#### ◆生活実態調査(生活習慣や学習環境等に関する質問)

①児童・生徒に対する質問

②学校に対する質問

学力・学習状況調査に関するお問合せ先：養父市教育委員会学校教育課  
(☎664-1627・ホームページ <http://www.fureai-net-tv/yabusikyoui/>)

分の表現に役立てること

【具体的な改善策】  
▽論理的に思考・説明する活動の充実を  
●得られた情報をもとに自分の考えを筋道立てて説明する機会を増やす。  
●式や図を用いて考えを表現し合う学習活動を展開する。  
●「理由と結論を明確にして話す習慣」を身に付けさせる。  
▽学習と生活とを結びつけて考える習慣を

【具体的な改善策】

●学習したことを、生活の中で生かしたり応用したりするなど生活との結びつきを意識した学習展開を工夫する。  
●日頃から身の回りの事象に関心をもたせる。  
▽数の意味や大きさを、具体的なイメージを持って理解させる活動の充実を

▽新聞を読む習慣や、毎日一定時間読書する習慣を  
▽まめに「辞書」をひく習慣を  
●聞き慣れない言葉や意味のわからない言葉に出会ったらすぐに辞書をひく習慣を。  
▽「話す」「書く」活動の充実と工夫を

度であることの証明について正しいものを選ぶこと  
▽蛍光灯と白熱電球の総費用について、二つの総費用が等しくなるおよその時間を求めること

●「具体的な事象の中から、事象を単純化し、数学的に解釈する能力」「自らの意見や考えを言語化する能力」の二つの力を育成するための学習展開の工夫。  
●考えた過程をノートやレポートにまとめて発表したり予想したことを説明し合ったりする。  
▽グラフに表現したり、グラフから情報を読み取ったりする活動の充実を

●「具体的な改善策」  
▽数学的な表現を用いて説明したり、根拠を明らかにして説明したりする学習活動の充実を

【具体的な改善策】

▽詩歌に親しませる工夫を  
●教科書以外の多様な詩や短歌も取り上げ、鑑賞させる。  
▽豊かな感性を育む工夫を  
●日常から多様な文化や自然芸術に親しませる。

▽同位角、二元一次方程式、反比例の理解  
▽三角形の内角の和が180

▽普段、長時間(3時間以上)勉強する子が少ない!  
小学6年≦7.4%(県16.9%)、中学3年≦6.2%(県9.7%)  
▽土曜、日曜日に長時間(4時間以上)勉強する子が少ない!  
小学6年≦1.7%(県9.5%)、中学3年≦1.9%(県4.3%)  
※まじめに宿題に取り組む養父市の子ども。でも予習や復習、テスト後の間違い直しとなると、それほど熱心には取り組んでいないようです。

〈中学校(国語)〉

【できていなかったこと】

▽短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと(切れ目の理解)  
▽文法事項(形容詞の理解)に関すること

〈中学校(数学)〉

【できていなかったこと】

▽「もどかしい」など聞き慣れない語句の用い方  
▽詩の表現の仕方に注意して内容をとらえること  
▽資料に表れている工夫を自

▽平行四辺形の性質(線対称か点対称か)の理解  
▽中心角60度の扇形の面積について、正しいものを選ぶこと

養父市の子どもの家庭学習は「短時間」宿題中心の学習スタイル  
養父市の子どもたちの学習習慣について詳細に分析して

## 21年度の問題から・・・①《小学・算数B》

Q、よう子さんたちは、博物館に行くことにしました。

午前10時20分までに博物館に着くためには、午前何時何分に発車する予定のバスに乗ればよいかその時刻をすべて書きましょう。

◆このバス停には、午前9時40分に集合します。

◆港博物館までは、バスで20分かかります。

※下の表は乗車するバス停の時刻表の一部です。

	港博物館行き時刻表			
6	10	40		
7	10	40		
8	10	30	50	
9	10	25	45	55
10	10	25	45	55
11	10	30	50	

※解答は、18ページに掲載しています。